



# ハットゥシャ

## ボアズカレ-ハットゥシャ遺跡

アナトリア文化史におけるヒッタイトの首都ハットゥシャは、帝国の発展そのものを物語っている。ハットゥシリ1世はアナトリアにおいて初めて中央集権国家を構築した。そして広大な領土を政治及び文化的に掌握する国家形成に成功した。ヒッタイトの専横政治と聞く強い軍事的色彩が運使されるが、ヒッタイトは多くの場合、各地地の王と条約による納税システムを結び、この命令に従った王選にはある程度の自由度が認められた。

ヒッタイト国の首都となったハットゥシャは、当初76haの領土であった。紀元前14世紀になると、この都市は約6kmにも及ぶ城壁によって囲まれることになった。この城壁には基礎石と、その上には日干レンガによって造られた高い塔があった。またこの都市には、いくつかの門があり、その門には象徴的な彫刻が施されていた。門のほとんどは保存状態が良く、ライオン門、武器を携えた神が彫られた王門は非常に重要である。

都市の南にあるイェルカブはハットゥシャで最も興味深い遺構である。この部分で城壁は高さ20mの人工尾根になっている。この人工尾根の外側斜面は全長250mにも及ぶ石灰岩ブロックで覆われている。この尾根は断面がピラミッド形をしており、頂上にはスフィンクス門、その下にはハットゥシャで唯一通行可能なトンネルがある。長さ71m、高さ3mのトンネルを抜けると城壁の外へ出ることができる。



ヒッタイト王たちは、今日ブックカレと呼ばれる岩壁の上に造られた宮殿から国を支配していた。この宮殿は、列柱によって囲まれた中庭、その周りに配置された大小さまざまな建物からなる建築コンプレックスであった。ここには王とその家臣の他に宮殿の役人や“金の短剣”と呼ばれた衛兵たちもいた。



ハットゥシャはヒッタイト帝国の行政首都、宗教センターであった。ヒッタイト文書によれば、ハットゥシャの国は“千の神々の国”と呼ばれていた。多神の存在は興味深い言い伝えに基づいている。ヒッタイト人は他国に侵略した際、その神々を怒らせ、その復讐を受けることのように、期り物や祈りを捧げ、自らの神々の中に取り込もうとしていた。

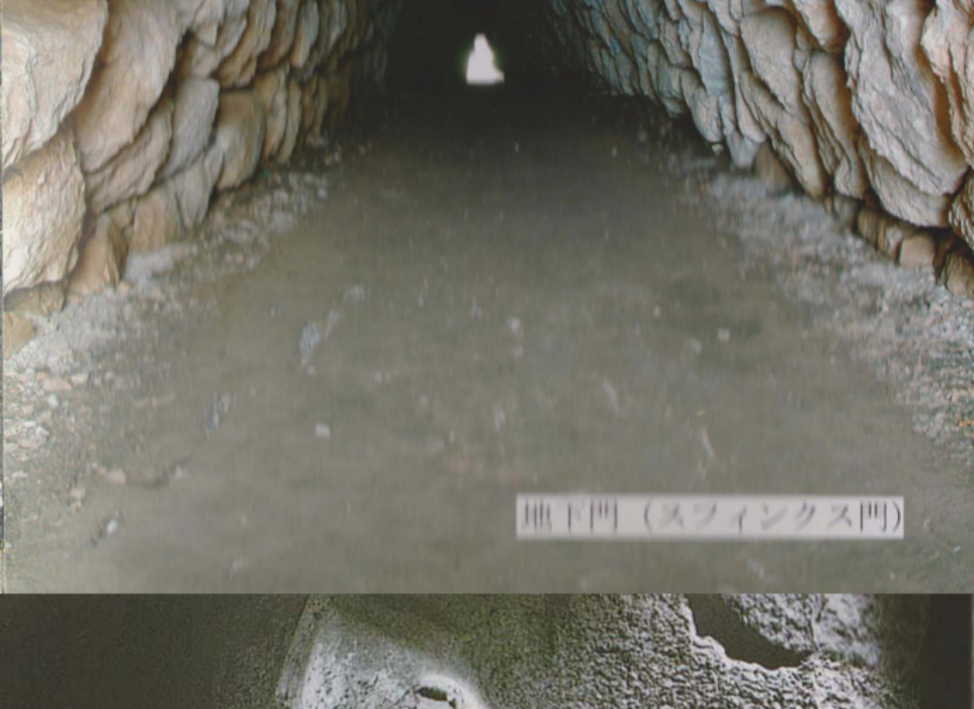


クライマックスシーン/ヤズルカヤ

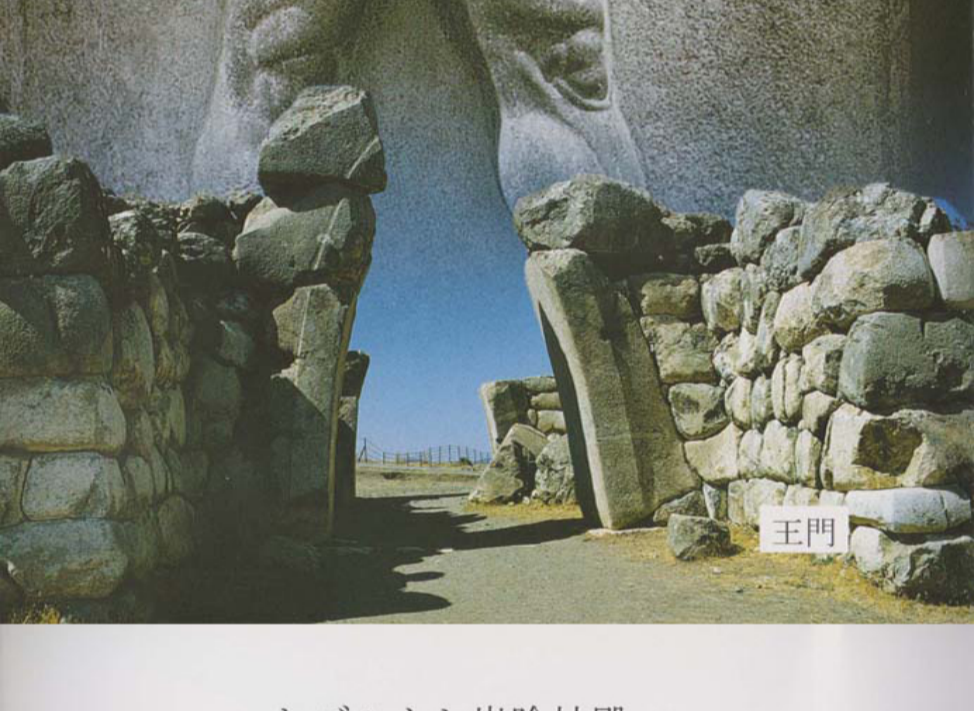
さらに各都市には守護神がいた。首都では帝国のさまざまな都市で崇められた神々の高に神殿がつくられた。首都ハットゥシャでは31個の神殿が確認されている。下の町では最高神である暴風神と共に、アリンナの太陽女神を祀った大神殿がある。文書資料によればヒッタイトの神殿は単なる神々の家ではなく、同時に自らの労働者を使って土地、工房を運営する協会としての機能があった。



Room, number 2 とシュビルリウマ II 世



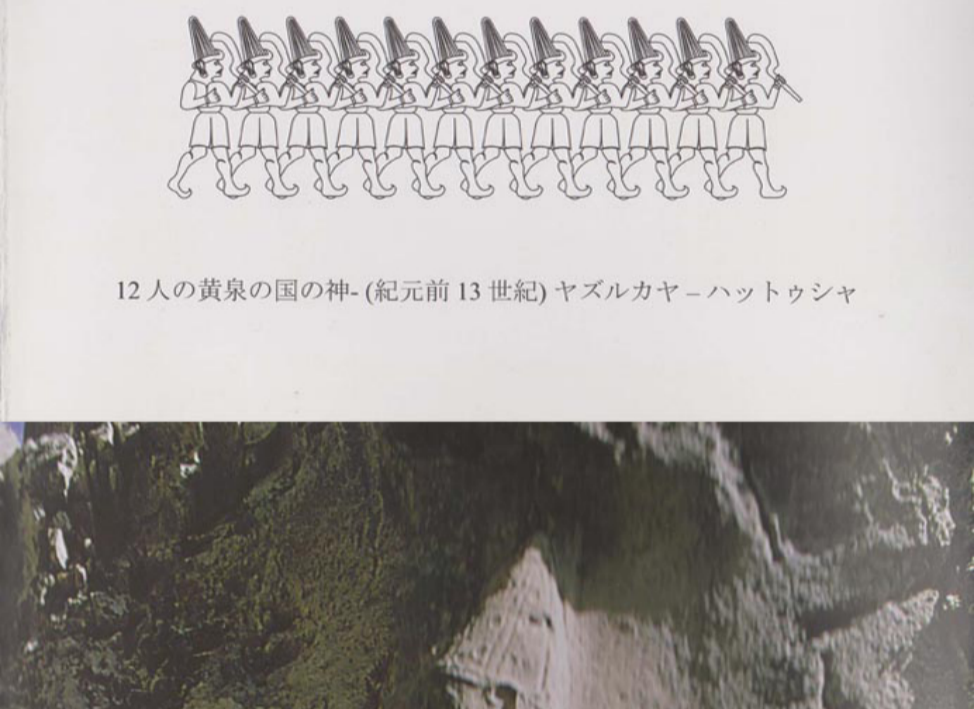
大神殿



ライオン門



川門門 (スフィンクス門)



王門

## ヤズルカヤ岩陰神殿

ハットゥシャにおいて最も印象的な聖所は都市から少し離れた、切り立った岩壁の中にあるヤズルカヤである。この神殿は、春の新年祭に使用され、国内の重要な神、女神が序列に列って彫られている。

ヤズルカヤ A 部屋にある浮き彫りには特別な順序、配置がある。岩の左側は二例を除いて男神のみ、右側は女神のみが描かれている。クライマックスシーンには暴風神が、その妻である太陽女神と子供達に連れられる姿が描かれている。クライマックスシーンの向いには大きなトッドゥクハリヤIV世像が描かれている。

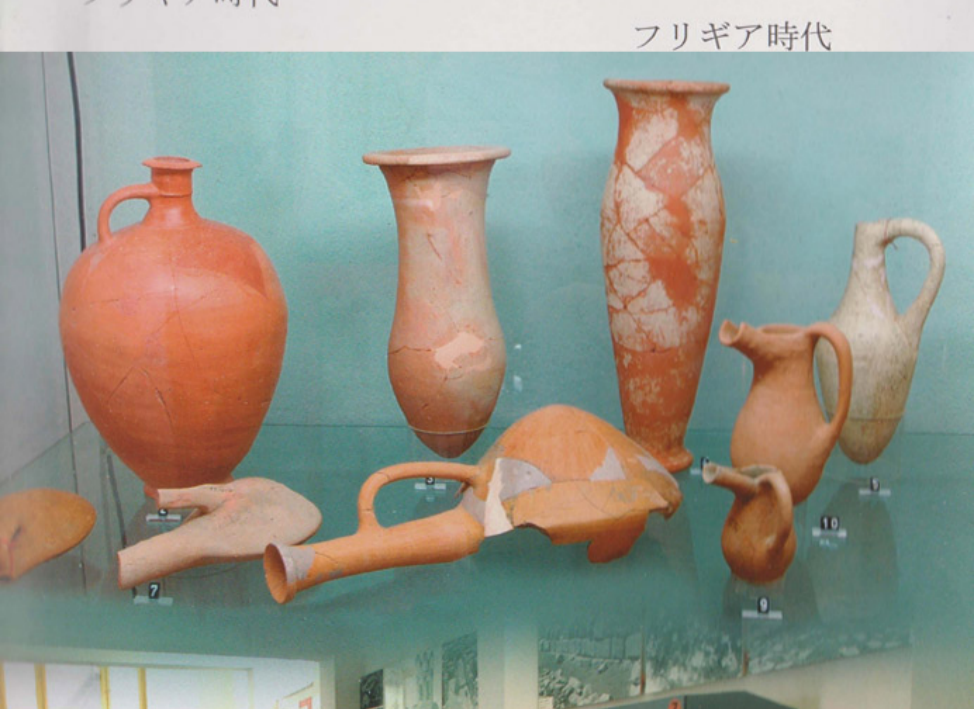


王は太陽神を示す短剣を着て、手には支配のシンボルである先の尖った短剣をもち、二つの丘を踏んでいる。

B 部屋の浮き彫りは、両側の壁にランダムに描かれている。鎌形の短剣を持った十二人の神、“剣の神”ネルガル、黄泉の国の神々である。大王トッドゥクハリヤIV世の守護神であるシャルベは王を抱きかかえ、道を指し示している。



12人の黄泉の国の神-(紀元前13世紀)ヤズルカヤ-ハットゥシャ



剣の神ネルガル



ヤズルカヤ Room B/ ハットゥシャ

## ボアズキョイ博物館

チョルム博物館の管理下にあるボアズキョイ博物館はチョルム南西82km、ボアズカレの中心地である。博物館は1966年9月12日に開館され、ハットゥシャの発展、もしくはまた周辺から出土した遺物の管理と展示をしている。

ヒッタイト時代の遺物が大部分を占めているが、銅石器、前期青銅器、フリギア、ローマ、ビザンツ時代に関する遺物も展示している。

第一展示室には銅石器、前期青銅器、アッシリアコロニー時代の土製品、大展示室に入る途中には、ヤズルカヤ出土の女神イシュタルの浮き彫りがある。第二展示室には編年に基づいて並べられたアッシリアコロニー、ヒッタイト古王国時代の大型水差し土器、出土状況を捉えた写真が展示されている。次の展示室にはヒッタイト古王国、帝国時代の土製品、石製品、フリギア時代の彩文土器、フィブラ(留り針)、ローマ時代の土製品、ガラス製品、ビザンツ時代の教会に関する青銅製品がある。さらに大展示室の中央展示ケースにはヒッタイト時代の模形粘土板、印章、プツラ(封泥)、円筒印章、スタンプ印章、青銅製斧、針、鋤型、浮き彫り付土器片が展示されている。



フィルター付土器 アッシリアコロニー時代



バスタブ ヒッタイト時代



祭祀用土器 フリギア時代



把手付箱形土器 フリギア時代



ボアズキョイ博物館

## ハットゥシャ (ボアズカレ) への行き方



ボアズカレ-アラジャホック : 35 km  
 ボアズカレ-チョルム : 87 km  
 ボアズカレ-アンカラ : 203 km  
 ボアズカレ-カパドキア : 210 km

住所 : Yeni Hükümet Binası C Blok Kat:8 Çorum  
 電話 : 0.364.213.85.02 - 213.47.04  
 ファクシミリ : 0.364.212.05.10  
 チョルム博物館 : 0.364.213.15.68  
 アラジャホック博物館 : 0.364.422.70.11  
 ボアズキョイ博物館 : 0.364.452.20.06  
 e-mail : corumkultur@kulturturizm.gov.tr  
 Web : www.corumkultur.gov.tr

Bu broşür Çorum Valiliği Kültür ve Turizm Müdürlüğü'nce hazırlanmış ve il ÖZEL İdaresince bastırılmıştır.